

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ライクスステップ教室			
○保護者評価実施期間	2025年2月10日 ～ 2025年2月28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数)	18名
○従業者評価実施期間	2025年1月31日 ～ 2025年2月28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年6月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小学校の低学年の生徒はおらず、高学年向けの教室であるため、低学年の子たちばかりの教室とは違い、様々な高度な活動がおこなうことができる。	学年によりできることはやはり違ってくることが多いです。子どもたちが高学年になると、取り組むべきことを高度化して、様々な未体験なことにもチャレンジしてもらうことができる。	さらに色々な活動を取り揃えて、学年に応じた個別対応もどんどん入れられるようにプログラム作成に取り組んでいく。
2	学校生活をはじめとした日常の習慣を重視していくことと、それらを持続させるため、まずは子どもたちが毎日を楽しく過ごせることを大切にしています。その中で、少しずつ他者とのかわり方や社会のルールなど必要なことを学んでいくことができるので、時間の経過とともに子どもたちの成長の様子がよくわかります。	日々の生活のルーティン化による慣れにより（手洗い・宿題・ライクスプリント・片づけ、順番を待つ、集団活動など）、嫌いなことや面倒なことなど、日々の苦手なことも徐々に慣れ親しむことで、数か月後には、当たり前にな自発的にそのルーティンをごなせるように意識して運営しております。	日々こなすべきルーティンが身についていない子ども、まだ利用に慣れていない子どもたちにも、それらを浸透しやすくさせる努力をするべく、絵カードなどの掲示物などをもっと利用したり、日常的にそのような事項の説明の機会を設けていく。
3	学校生活などの集団への順応、集団活動ができることはとても大切だと考えています。そのため、みんなでする運動（ゲーム）という集団活動の時間はもちろん、常時、教室内で、さまざまな活動を集団であることを意識した取り組みをしております。そのため人の話を聞いたり、集団で活動することが、自然とできるようになってくると考えています。	集団活動を苦手とする子どもたちには、個別にサポートをつけて、少しずつでも活動に参加できるようにしています。また切り替えできない子たちのため個別のタイマー設定などを実施しています。	公園や施設訪問など、積極的に外出の機会を設けて、社会とかわりのある集団活動を積極的に取り入れていく様にしていく。外部での集団活動に必要なルールを身に付けられるように、普段から、ルールなどの周知をしていくこと。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	教室間の交流や、父母の会の活動支援・ペアレントトレーニングなど保護者参加ができる研修、保護者会等、情報発信の機会が少ない。	年間計画の中に、教室間の交流や、父母の会の活動支援・ペアレントトレーニングなど保護者参加ができる研修・保護者会等、情報発信の機会を入れていない。	年間計画により、教室間の交流や、父母の会の活動支援・ペアレントトレーニングなど保護者参加ができる研修・保護者会等、情報発信の機会を設けていく。保護者が事業所を知る機会を積極的に作っていく。
2	個別療育にまだまだ弱いところ。適正な指導員以上の数を配置してはいるものの、どうしても集団療育を意識して療育にあっているため、個別療育の視点が弱い部分がある。	事前の支援計画の弱さに加えて、集団を重視しているため個別療育の観点が弱くなっており、理念の共有や研修の不足が原因となっていると思われる。	専門職による個別でのかわりを重視するとともに、個々の指導員にも個別療育に関する理念を共有し、研修などを通じて研鑽していく。人員配置の工夫をしながら、集団活動中心を大切にしつつ個別も重視して、少しずつでも時間を確保できるようにしていく。
3	地域交流への参加の機会が少ない。	児童の問題行動のリスクと、時間の都合や職員数の関係もあり、参加に消極的になっているところがある。	地域の公園への積極的なおでかけ、地域のお祭りなど行事があった際に参加するなど少しずつ地域交流を図っていきたい。